

「孤独・孤立対策」に取り組みます。

今国会で、「孤独・孤立対策推進法」が成立する見込みです。

約5年前、長く地域のお世話をされていた方から、単身世帯が増えて地域活動にご苦勞されているとお話を伺いました。確かに地域を歩くと一人暮らしが増えており、孤立対策の必要性を感じました。そこで私は孤立対策について、国会で取り上げ委員会等で質問を重ねてきました。ようやく法案化に至りました。

今や「親子四大家族」は標準世帯ではなくなりました。一人暮らしが最多世帯となり、2040年には4割が「一人暮らし世帯」になります。高齢者だけでなく、未婚率が上がり現役世代の単身も増えています。これは日本社会の大変化です。

何が問題なのか。一人暮らし世帯は他の世帯に比べて、貧困、介護、孤立のリスクが高まります。誰もが孤独・孤立に追い込まれる可能性があります。日本の社会保障制度は、一人暮らしが最多世帯になることを想定していません。お互いに支えあう社会をもう一度つくりなおさなければなりません。

今法律によって、福岡市においても孤独・孤立対策地域協議会を設置することが努力義務として課されます。困っている方々へ支援が行き届くよう、地域、行政、支援団体などが協議、情報交換ができる（個人情報保護の保護は前提）仕組みができました。

実態調査のための予算も計上されています。私は、高齢者や女性単身世帯の実態調査が必要と政府に問題提起をしました。

しっかりとこの法律が実効性あるものになって、「支えあう社会」へ前進するよう、引き続き取り組んでまいります。